

キャリア・パスポートって 何だろう？



なぜポートフォリオは キャリアを考える上で効果的なのか？

特に小学校で、
真剣に考えるように
なるんだね

キャリア教育の場面においては、**学習や活動の内容を記録し、振り返ることには、教師にとっても、児童生徒にとっても意義があります。**

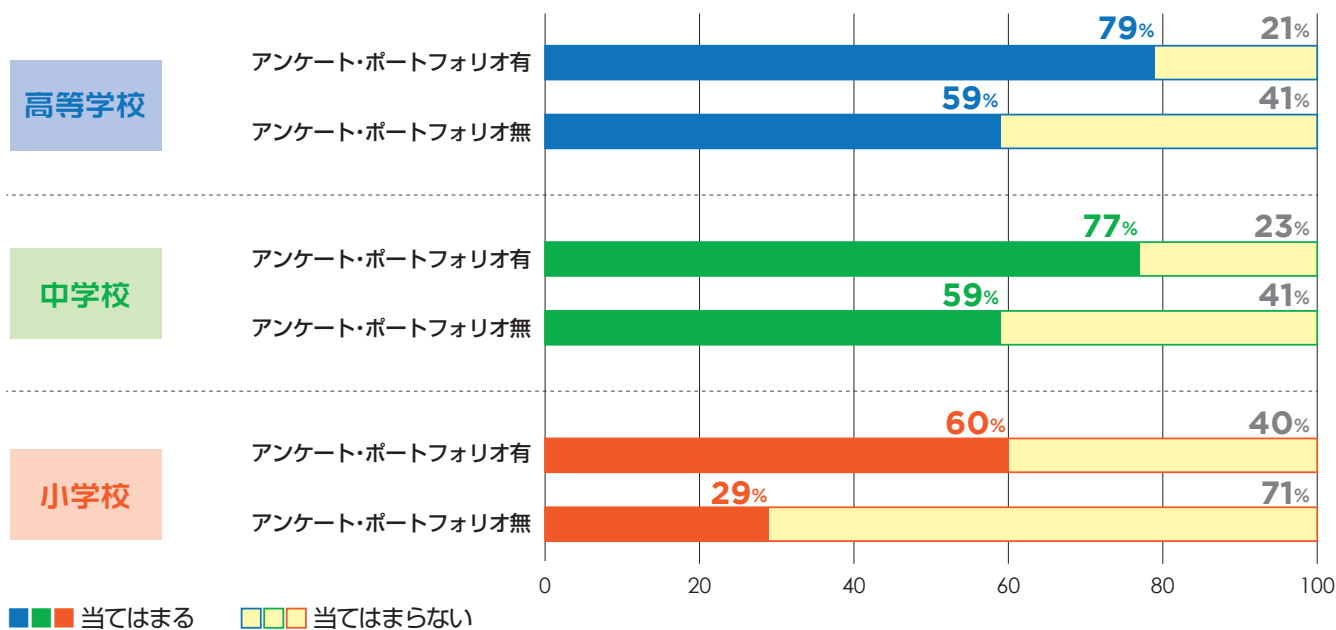
キャリア教育の成果に関する評価、例えば、「アンケートやポートフォリオ等」の実施を全体計画に盛り込んでいる学校の「児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている」という結果が全国アンケート*1からも得られています。

また、実際に「生徒理解のための個人資料」として「キャリア教育の記録(ポートフォリオ)や成果」を利用している学級・ホームルーム担任の先生方は、キャリア教育を通じて「生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている」と手応えを感じているようです。

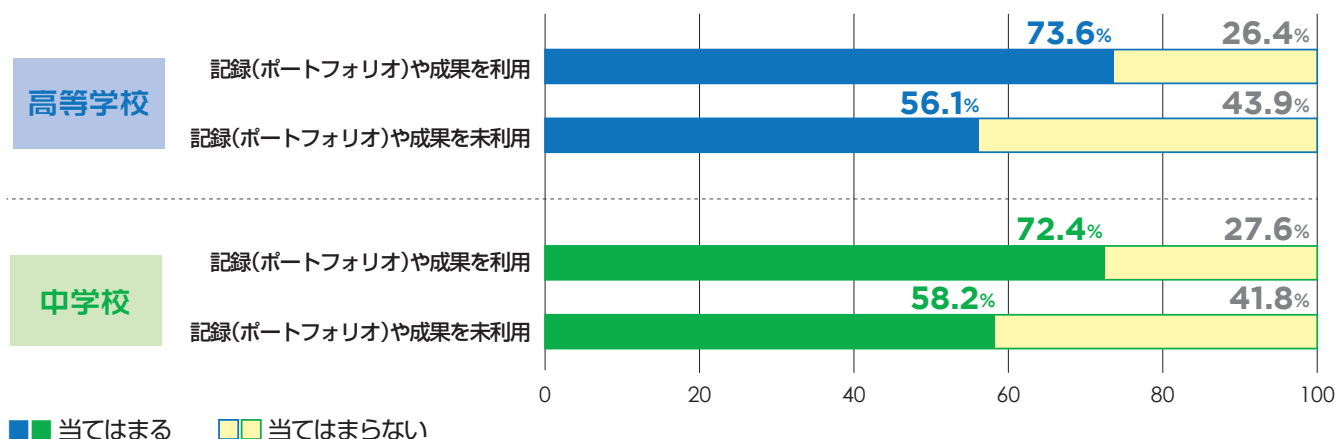


児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている

🔍 学校調査 「全体計画内に盛り込んでいる事項」

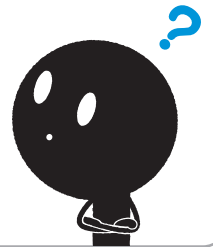


🔍 担任調査 「生徒理解のための個人資料」





なぜ、こうした記録、ポートフォリオの活用は「児童生徒は自己の生き方や進路を真剣に考え」ることにつながるのでしょうか？



A. ポートフォリオが、キャリアに合った(自己)評価の形だから



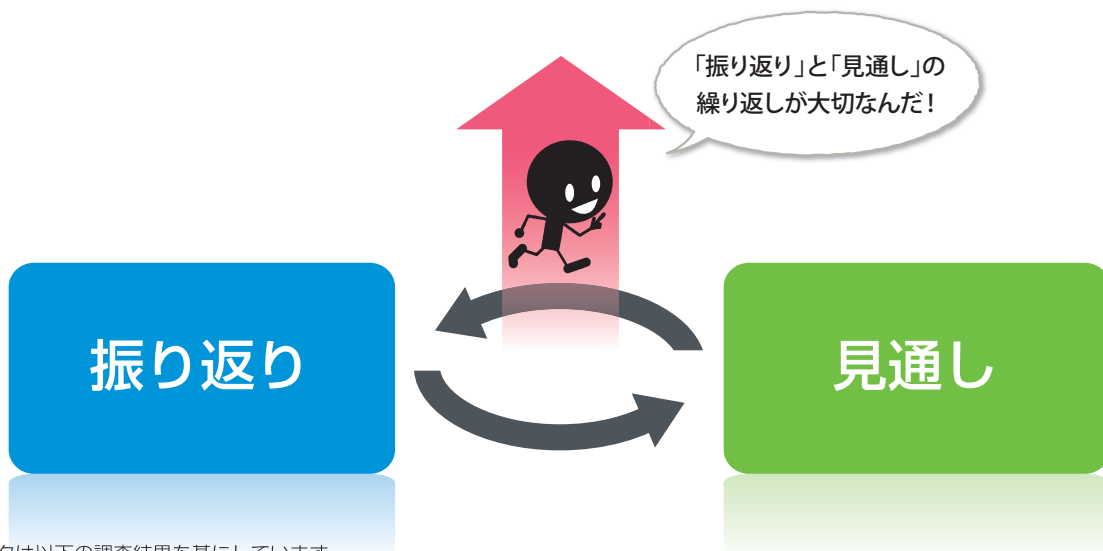
人は他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等様々な役割を担いながら生きています。こうした様々な役割について、人はその関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいきます。こうした役割の連なりや積み重ねがキャリアとなります。

キャリアは「ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく(中略)発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠」*2であるとも言われています。

児童生徒が自ら「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ことができるためにも、そうした活動を促す組織的・体系的な働きかけと、それを支える教材が不可欠です。

このように考えると、その時々活動を記録し、蓄積していくポートフォリオは、「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ための材料と見ることができます。

キャリアが役割の連なりや積み重ねであることに立ち返れば、そうした材料(教材)とそれを利活用した教育活動は1回きりで終わるものではありません。日々の振り返りや、学期、学年ごとの振り返り、学校種を越えて、積み重ねられていくものになります。



*1 このデータは以下の調査結果を基にしています。

調査名称: キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

実施時期: 平成24年10月~11月

調査方法: 各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出

調査協力: 学校(小995校, 中500校, 高993校), 学級・ホームルーム担任(小1,681名, 中950名, 高1,978名),

児童生徒(小4,179名, 中4,235名, 高4,660名), 保護者(小4,008名, 中3,931名, 高4,259名), 卒業者(中1,503名, 高1,169名)に御協力を頂きました。

※本調査結果の詳細については、以下の2冊の報告書を御参照ください。

第一次報告書: http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report.htm

第二次報告書: http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_2.htm

*2 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)第1章

新学習指導要領と答申に見える ポートフォリオに係る記述

前ページまでで見てきたことを踏まえると、2020年からの学習指導要領やその根拠となった2016年の中教審答申において、次のように記載されていることについて腑に落ちる先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

●学習指導要領特別活動第2〔学級活動・ホームルーム活動〕3内容の取扱い

学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の(在り方)生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、(児童)生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

●中央教育審議会答申 平成28年12月21日

子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置付けることが適当である。例えば、特別活動(学級活動・ホームルーム活動)を中核としつつ、「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用して、子供たちが自己評価を行うことを位置付けることなどが考えられる。その際、教員が対話的に関わることで、自己評価に関する学習活動を深めていくことが重要である。

●中央教育審議会答申注釈 平成28年12月21日

(前略)…既に複数の自治体において、「キャリアノート」や「キャリア教育ノート」などの名称で、児童生徒が様々な学習や課外活動の状況を記録したり、ワークシートとして用いたりするなど、子供自らが履歴を作り上げていく取組が行われており、こうした取組も、「キャリア・パスポート(仮称)」と同様の趣旨の活動と考えることができる。こうした既存の取組の成果を参考としながら…(後略)



本特別編では、次号以降で
「キャリア・パスポート」の実践に取り組んでいる事例を御紹介します。

